

# 淡路島のセンチコガネ

付：兵庫県下センチコガネ類の分布

(兵庫県甲虫相資料・71)

高橋 寿郎

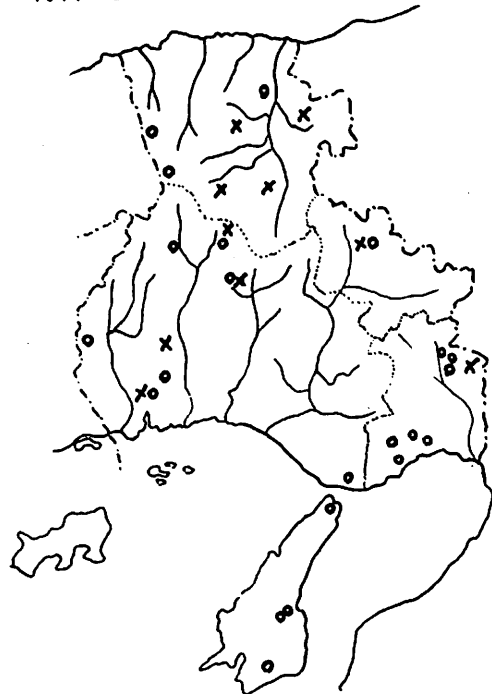
日本のセンチコガネ科は2亜科，3属，6種が知られ，世界からは約500種知られている。(中根，1970)。

兵庫県下には2亜科，2属，3種を産する。この内センチコガネ属(*Geotrupes*)は日本産5種1亜種を産し兵庫県下に2種分布する。

淡路島に産するセンチコガネは日本のセンチコガネの内での西日本型の中の淡路島型集団として特徴ある型であるとされている。(永野，1964)全日本産の標本を所有しているわけでもないので比較出来ないが，少なくとも兵庫県下各地産との比較はある程度出来るのでその点に就いて眺めてみる。

尚本報文を発表するに当り洲本市先山，曲田山産のセンチコガネ標本を御恵与頂きました堀田久氏に厚く御礼申しあげる。

最近道路が舗装され，自動車や耕耘機の発達普及に伴って役牛馬の飼養が急速に減少して兵庫県下における標本の集収が困難になって十分な材料を使用出来なかったことは残念である。糞虫類もこの調子でゆくと珍稀種になってゆくか絶滅する地域も多くなるような気がする。



兵庫県におけるセンチコガネ・オオセンチコガネの分布  
×…オオセンチコガネ ○…センチコガネ

センチコガネ *Geotrupes laevistriatus* Motschulsky, 1866は日本各地(北海道, 本州, 四国, 九州, 奄美大島, 沖縄), 及び国外では千島, 朝鮮, 満州, 樺太, 東シベリア, 中国に広く分布している種である。兵庫県下でも割合広く分布している。次に分布している所を地名のみ記しておく。

津名郡岩屋, 洲本市先山, 曲田山, 三熊山, 三原郡諭鶴羽山・川辺郡猪名川町, 三草山・川西市一の島居・神戸市内(御影, 摩耶山, 山の街, 妙法寺, 多井畑, 有馬)。明石市明石公園。神崎郡大山町, 大河内町砥ノ峯。相生市三瀬山。揖保郡内, 鶏籠山。佐用郡上月。城崎郡神鍋山。出石郡神美村, 伊東郡口藤。豊岡市妙法寺。養父郡水ノ山。美方郡扇ノ山。

センチコガネは畑の多いところ, あるいは市街地内の僅かな緑地などに生活しているものがみられ, 分布が普遍的, 連続的である傾向をもっていると云われている。

大きく東日本型と西日本型にわけられその中でまた地方型が区別されるということであるが余り大きな違いはないようである。

西日本型の背面は黄銅～金茶～赤紫～暗青藍～や、明藍紫, 腹面は明るく冴えた赤紫～青藍～紺藍を呈する。

奈良型集団は違った色彩を呈しており背面は暗青藍, 腹面は赤紫に黄銅光をもつ個体が多い。

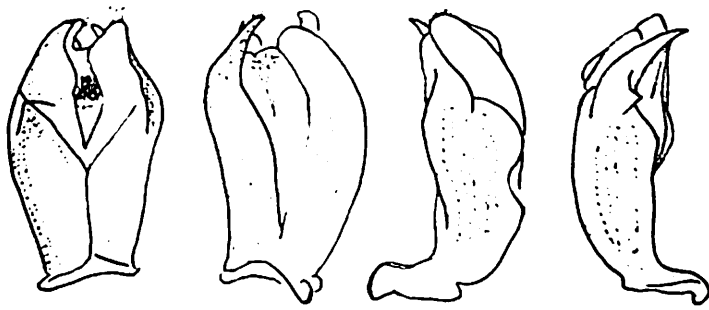
兵庫県産は丹波集団と称されるグループに属する, それと淡路島産のものは淡路島集団に属しやや特異な色彩を呈する。

兵庫県下全般を眺めて見ると背面は黄銅～金茶色系のものが多く中央部から北にいるものはどちらかと云えば金茶色の傾向が出てくる様だが神戸市内, 明石市内産にも美しい金茶色系のものが少ないながらもまじる, そして瀬戸内海に面する地に近い所のものは次第に暗黄銅になり暗い系統のものが出る, そして淡路島系のものにつながる。腹面は赤紫色の光沢の強い個体が多い, 背面の青黄個体はほとんど見られない。

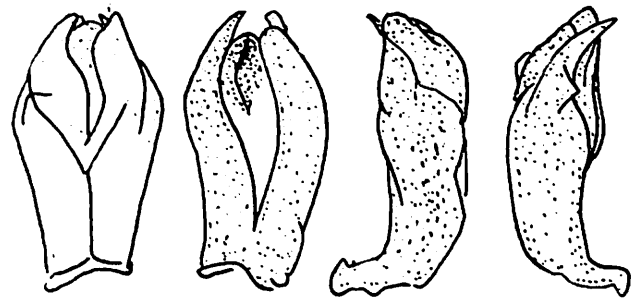
淡路島のものは之等と違って背面わずかに青藍光もおび緑部強い藍色光を示し, 腹面強い青藍の個体が多い。割合特色があるこの様なのは洲本とか南の方にいるもので岩屋ではむしろ黒味がもっと強くなって来る。

また交尾器も淡路島産の方がズングリしている感じがする。

以上の様にセンチコガネに関しては明らかに淡路島産のものは独特の色彩をしていると云えるが南から北へ, そして瀬戸内海沿の明石あたりのものにつながっている様な傾向を現しているのも面白い。



センチコガネの交尾器 神戸市兵庫区山の街産 (24-X-1978)



センチコガネの交尾器 津名郡岩屋産 (26-IV-1959)

オオセンチコガネ *Geotrupes auratus* Motschulsky, 1857の方は残念ながら淡路島に産しない、否兵庫県下でも割合産地が限られているようである。

オオセンチコガネは日本(北海道, 本州, 四国, 九州), 千島, 濟州島, 朝鮮, 東シベリヤに分布している。水野氏によるとカモシカ, シカ, イノシシのような獣類の集団が比較的よく保存されてきた地区などに分布が局限され各地域集団が互いに隔離されている傾向が強いと述べておられる(1964)。

兵庫県下でオオセンチコガネの産地として知られている所は次のとおりである。川西市内。神戸市内? 飾磨郡雪彦山。神崎郡大山村, 笠形山。多可郡三谷, 三国岳, 千ガ峯。朝来郡山東町遠坂峠。相生市三濃山。水上郡神楽, 篠ヶ峯, 葛野, 芦田。出石郡神美村。城崎郡神鍋山。養父郡妙見山。この内神戸市内における記録に就いて一寸述べておく。古くは Heyden による Hiogo (現在の神戸市, 湊川より西の地) の記録がある(1879), 当時の Hiogo は全く未開の地であったから本種がいたかもしれない。

関 公一氏は「御影町附近産の昆虫目録」の中で記録しているが詳しいデータが無い(1933)。収録範囲が摩耶山, 六甲山も含むとあるからその点可成り広範囲の意味があるのでどの辺の産か一寸不明。たゞ同氏による翌年発表された「大阪・神戸附近の舎亀子虫(1934)」の中ではキンイロセンチコガネなる和名の下に「箕面に極めて普通に産する」とあって神戸での記録は無

い、新にムラサキセンチコガネを記録しているがこれがオオセンチコガネをさしているのかどうか  
わからない、同様に北村達明氏が多井畑から記録されたムラサキセンチコガネ(1937)、増田  
猛・橋本直也両氏の摩耶山からの記録(1941)のムラサキセンチコガネも共々何をさしている  
かはっきりしない(饒平名, 1936)。

Heyden 時代にはいたかも知れないが現在の神戸市内でのオオセンチコガネはまず産しない  
と見て差し支え無いと考えている。

従ってこの種は兵庫県下でも中央部に広く分布している様で海岸線沿の地域は開発されているこ  
とから分布はしていないと思われる。

オオセンチコガネの方も体色に変化が多く、水野は色々の型並びに集団に別けている。兵庫県下  
に産するものはこの種に限ってほとんど変化が見られず西日本型に入るとされる。緑を含む赤  
銅～や、銅色をおびる緑を呈し美しい。

センチコガネ並びにオオセンチコガネが牛・馬糞を玉にして転す習性の記録がある(加藤, 19  
33, 人見, 1935, 饒平名, 1936)。獣糞を丸めて球を作り之を運搬する習性はファー  
ブルの昆虫記で一躍有名になり、アフリカとかお隣の中国大陸では良く見られる光景である(筆者も  
北支で可成りの数を見ることが出来た)が、之等はいわゆるタマオシコガネと云われる *Scarabaeus sacer typhon* (Fischer, 1823) のことでこの仲間は勿論日本にはいない  
一般に糞を転す習性のものは *Scarabaeus* 及び *Gymnopleurus*, *Sisyphus* に  
よって代表され、従って朝鮮、台湾あたりには住んでいる。

センチコガネの仲間もこの様な習性が全く無いわけではなさそうであるが昨今の様に獣糞が少な  
くなった状況下ではこの様な光景を見ることは困難になったと云えよう。

以上淡路島のセンチコガネ、兵庫県下に於けるセンチコガネ2種に就いて記した。始めにも書い  
た様にこれ等の虫が次第に数を減少してゆくことは淋しい限りである。

#### 参 考 文 献

兵庫県に関係のある文献は拙著「兵庫県産昆虫類に関する文献目録」(1975)を参照されたい。

加藤 正 世 (1933): キンイロセンチコガネ玉を転す  
昆虫界, 1 (1): 23.

人 見 一 馬 (1935): キンイロセンチコガネの奇習  
昆虫界, III (13): 77.

饒平名 智 郎 (1936): ムラサキセンチコガネに就いて

- 虫の世界, 1 ( 5 / 6 ) : 1 2 - 1 4 .
- 饒平名 智 郎 , 内 田 恒 道 ( 1 9 3 6 ) : 玉を転すセンチコガネの観察  
虫の世界, 1 ( 7 / 8 ) : 2 8 : 3 0 .
- 中 根 猛 彦 ( 1 9 5 2 ) : 日本のこがねむし (II)  
昆虫学評論, VI (3) : 2 1 - 2 4 .
- 中 根 猛 彦 ( 1 9 6 3 ) : 原色日本昆虫大図鑑, 第2巻  
( 昆虫篇 ), P. 1 1 1 ( 北隆館 ).
- 水 野 辰 司 ( 1 9 6 4 ) : 日本産センチコガネ類の地理的変異  
遺伝, 1 8 (9) : 2 4 - 2 7 .
- 益 本 仁 雄 ( 1 9 6 7 ) : 日本産コガネムシ類解説 [ 食糞群 ], II.  
昆虫と自然, 2 (2) : 3 1 - 3 4 .
- 中 根 猛 彦 ( 1 9 7 0 ) : 世界の糞虫  
昆虫と自然, 5 (1) : 2 - 8 .
- 塚 本 佳 ( 1 9 7 3 ) : 食糞性コガネ群についての考察 II.  
Bull. Heian High School (Kyoto), No. 1 7 :  
2 5 ~ 4 6 , p. 1 - 1 0 .

### 淡路島産蜂類覚え書 (IV)

2種を追加しておく。種の同定は名古屋市の名城大付属高校の山田晴昭氏にお願いしたもので同氏に厚くお礼申し上げる。採集者の H. Tobi は筆者の実弟登日英樹、T. Nara は奈良隆史君採集のもので、筆者採集のものを含めて標本は山田氏が保管されている。尚、カオプセンバチは淡路未記録種である。

1. *Ectemnius* (*Hypocrabro*) *schlettereri* (Kohl) イワタギングチバチ  
Mt. Hasekura-san, 1 ♀, 27. VIII. 1973 (H. Tobi); Mt. Mikuma-yama,  
1 ♀, 4. IX. 1976 (T. Nara)
2. *Psen* (*Psen*) *aurifrons* Tsuneki カオプセンバチ  
Mt. Senzan, 1 ♂, 8. VIII. 1974 (K. Tobi); Mt. Mikuma-yama, 1 ♂,  
26. VII. 1976 (T. Nara)

( 登 日 邦 明 )